様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６２８４１１０

研究課題名（和文）２０世紀中国地域社会の指導層・中堅層―江南地方の人材基盤研究

研究課題名（英文）Study on leaders and mid-level characters of communities in the 20th China: focus on human resources in Jiangnan

研究代表者
高田　幸男（TAKADA, YUKIO）

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：９０２５７１２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,600,000円

研究成果の概要（和文）：　20世紀の中国江南地方において地域社会の指導的人物、中堅人物、たとえば地方行政幹部、学校教員、企業経営者、工場技術者などがどのように養成されたのか、当事者へのインタビューと日記などを含む地方の文献の分析により考察を進めた。
　その結果、彼らが教育を受けた20世紀前半は、まだ義務教育も実施されておらず、地域や階層による教育の格差が大きいこと、そのなかで小工場の技術者は徒弟として養成されたこと、教会学校が貧しい階層に教育の機会を与えていたこと、抗日兵士は幹部向けの学校で識字教育を受けていたことなどがわかった。

研究成果の概要（英文）：In the 20th century in the Jiangnan region of China, how were leaders and mid-sized people in local communities, such as local administrative executives, school teachers, business owners, factory engineers, etc., were trained? We examined by analyzing local literature including interviews with the parties and diary etc.
As a result, the following was found out：in the first half of the 20th century when they were educated, compulsory education was not yet implemented, the disparity in education by the region and the hierarchy was great, among them the technicians of small factories were trained as apprenticeship, the church school Was giving educational opportunities to the poor hierarchy, anti-Japanese soldiers had literacy education at the school for executives.

研究分野：中国近現代史

キーワード：江南　地域社会　地域指導層　中堅層　人材養成　人材基盤

１．研究開始当初の背景
①多様な史料による地域社会の人材基盤研究の必要
最近 30 年間で、近現代中国の各地地域社会に対する研究は大きく進展した。江南地方（長江下流域の江蘇・浙江両省および上海市）は近代以前から経済・文化の先進地帯で文人や官僚などの人材を多く輩出し、近代以降も上海を中心に中国近代化の牽引役となってきたため、日本の中国地域史研究においても研究蓄積が豊富である。
だが、浙江省は上海や江蘇省ほど研究蓄積がなく、また、江蘇省にしても行政文書等による制度や行政に関する研究が多いなど、江南地方全域の経済的･文化的・社会的な発展の実態解明には課題が多い。さらに、従来の公的な行政文書に基づく研究は、中央政府の教育政策・経済振興策などの意図や実施過程について重要な知見をもたらしたが、行政文書には政策の末端における執行状況やその効果、地域社会の側の対応についてはほとんど記録されておらず、実態解明には至っていない。
一方で近年、中国地域史研究においても日記・帳簿など民間の未公刊史料の調査や当事者への聴き取り調査などが取り入れられ、行政文書からはうかがえない民間信仰や商業活動、様々な習俗、戦争における民間の被害実態など、民衆社会の実態の解明が進んでいる。ただ、こうした聴き取り調査は、村落等を単位としたものが多く、県やその下の郷鎮レベルの指導者・中堅層に対するものは多くなかった。一方、これら指導者・中堅層の回想録は、各地の「文史資料」とよばれる文献などに収録されているものの、各時期の政治的背景や制約の影響を受けており、その内容は検証する必要がある。
②長期的視野に立った研究の必要
中国近現代史研究は 1980 年以降、革命史観からの脱却がはかられ、中華民国期の実証的研究が進展した。2000 年以降、さらに中華民国期とその前後の清朝末期および中華人民共和国期との連続面と非連続面の問題に焦点が向けられるようになった。
「教育は百年の大計」といわれるように、教育・人材養成は結果が現れるのに長時間を要する。清朝末期の人材養成が民国期に、民国期の人材養成が人民共和国期に実を結んでいることは明かである。一方で養成された人材が政治・社会情勢の変化に適応できないという事態も生じ、また、戦乱や政治闘争などによって人材が活かされぬまま損耗してしまうこともある。長期的視野は、江南各地域社会の人材基盤を分析する上で不可欠であり、中国経済を牽引する江南地方の本格的な近代化が始まった 19 世紀末から 20 世紀を通観することにより、人材基盤の役割とその変遷・曲折を明確にし、各時期の連続性と断絶、次期に与えた影響を検証することができる。

２．研究の目的
本研究は､20 世紀中国の国家建設のありかたを地域社会（県レベル）の指導層・中堅層の人材基盤という視角から総合的に分析し、その地域社会における役割を解明することを目的とする。
主たる調査対象地域は、長江下流域の江蘇・浙江両省および上海市（便宜的に江南地方と総称）とし、当該地域内の各地域社会における郷紳や郷董などとよばれた伝統的指導層から、学校教員、近代的企業・工場経営者、技術者、あるいは農村工作者などの社会的中堅層へとどのように変遷・分岐していったのか、多様な地方文献や聴き取り調査によって解明し、地域社会における地位や人材基盤（人材養成システムと人材の活動基盤）を類型化する。そしてその成果を中国の他地方、日本やイスラーム社会などとの比較研究に提供する。

３．研究の方法
①史料的には、「新史料」の現地収集がメインとなる。「新史料」では、現地で、かつて地域社会の指導者や中堅層だった老人への聴き取り、すなわちオーラルヒストリーの史料収集が大きな柱となる。もう一つの柱が、その地方独自の文献史料であり、われわれは現地の档案館、図書館、地方志弁公室等で史料を収集し、また史料状況等について意見交換をした。
②史料調査においては日中合作でおこなった。このような現地調査は中国側研究者の協力が不可欠であり、そのため南京大学歴史学院（科研発足当初は歴史学系）、浙江大学中国近現代史研究所と協力協定を結び、両校を通じて、江蘇・浙江各地の協力を得た。この調査を通じて南京大・浙江大の研究者とはもちろんのこと、協力要請に応じた各地研究者とも緊密なネットワークを構築することができた。
③加えてこのプロジェクト自体、人材育成も若手研究者の育成も企図した。日中双方とも大学院生クラスの若手研究者を積極的に参加させ、共同研究を通じて若手を育て、日中のネットワークを継承・発展させることも企図した。
④上記と並行して、上海図書館所蔵の未公刊日記『農隠廬日記』の講読を進めた。この日記は清末の商部官僚で実業家の王清穆（1860 年–1941 年）によるもので、佐藤仁史が着目して講読会を呼びかけ、本プロジェクトの一環に組み込む形で実施した。この「王清穆研究会」も、手書き史料読解の訓練の場として若手研究者も参加した。

４．研究成果
①現地調査の実施
江南各地を訪問し、清末から人民共和国期の地方文献を収集・分析するとともに、1930

年代～50年代、さらには60年代の実体験について老人に聴き取り調査をおこった。

調査は補足的なものも含め5回おこなった

１．2015年3月、蘇北地区（淮安、塩城）、蘇中地区（南通、揚州）にて、44人に聴き取りし、淮安市淮安区図書館、南通博物苑、南通華僑博物館等を訪問し史料を収集。

２．2016年3月、浙西地区(湖州)、浙東地区(寧波)、浙南地区(温州、永嘉)にて、12人に聴き取りし、湖州市方志弁公室、温州市図書館、湖州市博物館、寧波幇博物館、寧波教育博物館、温州教育史館等を訪問し史料を収集。

３．2016年5月、浙江省慈渓にて、錦堂職業中学、呉錦堂故居故居、草帽業小学旧址、楊賢江故居等を訪問し史料を収集。

４．2016年9月、南京、鎮江、常州にて、19人に聴き取りし、鎮江市史志弁公室、鎮江図書館、常州図書館を訪問し史料を収集。

５．2017年3月、浙江省寧波、奉化、渓口、江蘇省無錫を訪問し、4人に聴き取りし、寧波市図書館、寧波銭幣博物館、蒋介石故居等を訪問し史料を収集。

②史料収集の成果

図書館では地方志や民国時期の教育雑誌、地域の口述記録などを収集し、地方志弁公室では地方志の編纂情況の説明を受け、また地方志を受贈した。とくに鎮江市史志弁公室では鎮江市志の編纂の際に全国で収集した鎮江に関する記述の膨大なファイルを見ることができ、地方志編纂の工程を理解することができた。

ただ、どの地域でも档案館（公文書館）を訪問することはできなかった。それは現政権の統制強化によるものかもしれない。

③聴き取り調査の成果

聴き取り調査は、江蘇省6市、計63名、浙江省5市区、計16名実施できた。聴き取り調査も地域によりばらつきが多く、江蘇省では、淮安と塩城では福利院（老人ホーム）で、鎮江では社区（地域コミュニティ）でおこなったため、それぞれ18名と16名、15名の聴き取りができたが、同じ福利院でも揚州では3名しかできなかった。

温州では、直前になって温州大学教授が手配していた老人たちが調査を拒否したため、個人的なツテで3名に聴き取りをおこない、その他の土地では現地大学教授の個人的ツテによるため数が限られ、大学教授など高学歴者の指導者というより知識人が多くなってしまった。そのなかには、中国工業化の先駆者張謇の孫娘張柔武女史が含まれている。

地域による聴き取り対象のばらつきは、江蘇省と浙江省の開放度の違いもあるが、やはり、年を追ってこのような調査に対する忌避ないし警戒感が強くなっているためと思われる。最後の大規模聴き取り調査となった鎮江地区は、個人的信頼関係から社区にアクセスできたもので、小規模であれば個人的ツテだけでも実施できるが、ある程度の規模でおこなうためには、個人的信頼関係を築き、公的関係をうまく組み合わせることが重要であることを痛感した。

また、副産物として福利院や社区の日常生活の一端を見ることができた。

聴き取り調査対象内訳

		文化教育	商工業	農村幹部	機関幹部	医師	知識人	合計
江蘇省2015年3月	淮安	3	5	1	6	3		18
	塩城	※未分類						16
	南通	1		1			2	4
	揚州	1	1	2	1		1	6
小計		5	6	4	7	3	3	44
浙江省2016年3月	湖州	2	2	1	1			6
	寧波	1	1				1	3
	温州	2	1					3
小計		5	4	1	1	0	1	12
江蘇省2016年9月	南京						4	4
	鎮江	※未分類						15
小計								19
浙江省2017年3月	寧波	2						2
	奉化	1					1	2
小計		3	0	0	0	0	1	4
総計								79

④聴き取り内容の分析

これらの聴き取り調査から、教員、農村幹部、機関幹部を問わず、1930年代はまだ私塾に通っている者も多く、さまざまな人材養成のあり方が見えてきた。

人民解放軍の兵士は、1950年代に入って除隊し幹部となり「幹部中学」に入学するがそこでの教育は識字教育が中心だった。このような事例は、江蘇・浙江を問わずあった。

戦争の記憶は、最古のもので1920年代の北伐戦争、最近のものは1950年代朝鮮戦争だった。

軍人としての戦争体験は、日中戦争から国共内戦、朝鮮戦争まであり、国民党軍の経験者も共産党系の新四軍の参加者もいた。なかには、四川省の女子中学生（日本の高校に相当）が、国民党軍を追って南下する人民解放軍に参加し、内戦終結後、江蘇省に転勤した例もあった。

また、農村基層幹部の場合、土地改革が人材リクルートの場となっており、貧農の子弟のなかで読み書きができる者が選抜されている。こうした貧しい家庭に教育の機会をもたらしたものに、江南に早くから入っていたキリスト教会の教会学校もあった。

農村においては私塾が多かったが、「百家姓」など伝統的な識字テキストを読ませる一方、算数を教えるなど、「改良私塾」的なものもあった。その一方で、公立小学校のなかにも1930、40年代でも宗族の先祖を祀る祠堂を流用していたり、識字教育しかおこなっていないものなどもあった。

都市の小工場などの技術者では、職業学校出身者を雇うのではなく、徒弟から養成することが少なくなかった。

また、地域によっては、小学校入学が法定の6歳ではなく、数え年9歳になっているなど、就学実態の多様性と格差が明らかになった。

さらに大学教育においても、上述のような経緯で革命運動や抗日戦争に参加して共産党幹部になった者が、高級知識人養成のために大学へ派遣され（「調干生」）、1955 年当時こうした調干生がクラスの１／３を占めたという証言もあった。

インタビューの際、反右派闘争や、大躍進、文化大革命などに話がおよぶことがしばしばあり、地方ごと、個人ごとの状況が見えてきた。教育現場における政治闘争は、上述の調干生などの存在も影響していることがわかってきた。

⑤国際シンポジウムの開催

こうした成果を公開・共有するため、2017 年 11 月 17 日、国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」を開催した。シンポジウムには、本研究に協力した中国各地の研究者に加え、江南地域社会を研究する中国の若手研究者も招聘した。当日は成果とともに課題も確認し、中国側からこのような研究を継続する意義と必要性が提起された。

⑦王清穆『農隠廬日記』の講読

現地調査と並行して上海図書館所蔵の未公刊史料『農隠廬日記』を講読した。王清穆は清末の改革は高級官僚で、辛亥革命前に政争で下野・隠居し、郷里江蘇省崇明県（現上海市崇明区）の郷紳として活躍した。講読会では毛筆で書かれた内容を読み取ってデジタル化を進めるとともに、その内容を順次雑誌に公開した（「雑誌論文」を参照)。デジタル化した内容は、台湾の中央研究院近代史研究所のデータベースへ提供している。

この講読には広く若手研究者も参加し、これを通じて、読書人とよばれる伝統的知識人の文章・書体に触れ、清末民国期の開明的郷紳のものの考え方、日々の活動を理解することができた。

⑧日中研究ネットワークの構築

上述のように、調査においてはいろいろな障害に直面したが、日中双方の研究者の信頼関係は厚く、ほぼ所期の目的を果たすことができた。さらに、研究協力者として参加した若手研究者も中国側若手研究者と信頼関係を築いており、日中研究ネットワークの構築は今後の研究の重要な資産になった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①王清穆著、王清穆研究会(代表高田幸男)編注、王清穆『農隠廬日記』（７）、近代中国研究彙報、査読無、第 40 号、2018 年、93-142

②王清穆著、王清穆研究会(代表高田幸男)編注、王清穆『農隠廬日記』（６）、近代中国研究彙報、査読無、第 39 号、2017 年、55-104

③王清穆著、王清穆研究会(代表高田幸男)編注、王清穆『農隠廬日記』（５）、近代中国研究彙報、査読無、第 38 号、2016 年、51-108

④王清穆著、王清穆研究会(代表高田幸男)編注、王清穆『農隠廬日記』（４）、近代中国研究彙報、査読無、第 37 号、2015 年、41-98

〔学会発表〕（計４件）

①高田幸男、江南科研の趣旨説明、12 年間の歩み、国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」、2017 年 11 月 17 日、東京、明治大学

②飯塚靖、現地調査からみた江南の農村基層幹部、国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」、2017 年 11 月 17 日、東京、明治大学

③大澤肇、小中学教育、国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」、2017 年 11 月 17 日、東京、明治大学

④高田幸男、大学生・学人の体験からみた中国現代史、国際シンポジウム「江南の中の近現代中国」、2017 年 11 月 17 日、東京、明治大学

〔図書〕（計１件）

①“江南百年”プロジェクト(代表：高田幸男)編、“江南百年”プロジェクト(代表：高田幸男)、江南の中の近現代中国―“江南百年”プロジェクト総括シンポジウムの記録、2018、105

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

高田　幸男（TAKADA, Yukio）
明治大学・文学部・教授
研究者番号：９０２５７１２１

(2)研究分担者

大澤　肇（OHSAWA, Hajime）
中部大学・国際関係学部・講師

研究者番号：００４６９６３６

飯塚　靖（IITSUKA, Yasushi）
下関市立大学・経済学部・教授
研究者番号：００５１４１２６

水羽　信男（MIZUHA, Nobuo）
広島大学・総合科学研究科・教授
研究者番号：５０２２９７１２

佐藤　仁史（SATOH, Yoshifumi）
一橋大学・社会学研究科・教授
研究者番号：６０３３５１５６

田中　比呂志（TANAKA, Hiroshi）
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：９０２６９５７２

(3)連携研究者

井上　久士（INOUE, Hisashi）
駿河台大学・法学部・教授
研究者番号：３０２８６１０８

金子　肇（KANEKO, Hajime）
広島大学・文学研究科・教授
研究者番号：７０１９４９１７

川尻　文彦（KAWAJIRI, Humihiko）
愛知県立大学・外国語学部・教授
研究者番号：２０２９９００１

久保　亨（KUBO, Tohru）
信州大学・人文学部・教授
研究者番号：１０１４３５２０

小浜　正子（KOHAMA, Masako）
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：１０３０４５６０

中村　元哉（NAKAMURA, Motoya）
津田塾大学・学芸学部・教授
研究者番号：８０４５４４０３

(4)研究協力者

（　　　）